

先進産業都市豊田における地域秩序の動揺(1)

—人口学的・社会学的変化が突きつける課題—

○名古屋大学 丹辺宣彦
○都留文科大学 山口博史
名古屋文理大学 中村麻理

1 目的

本報告の目的は、愛知県豊田市を事例として、人口学的・社会的な諸条件の変化により、地域的紐帯と地縁的まちづくりがともに強かった産業都市の地域秩序が少しずつ浸食されつつあることを示すことである。

2 方法

データとしては、主として 2015 年 8 月に実施した質問紙調査「豊田市のまちづくりと市民活動Ⅱ」によるデータを用い、2009 年に実施した際のデータと比較する。旧市内の成人(25-75 歳)を対象とし、60 町から各 50 人を確率比例抽出し(男女比 2:1 で)、3000 票を郵送で配布・回収した。有効回収率は 45.1%であった。

3 結果

2009 年の調査データでは、企業と地域社会の社会的交換と、安定した雇用、職住の接近を背景に「中流社会」が形成され、男性でも地域的紐帯がつよく、まちづくり活動に積極的に参加する独特の地域秩序が形成されていることが確認されていた(丹辺・岡村・山口編 2014)。分析の結果、2015 年データでは、近所づきあいや地域にもつ職縁など、強かった地域的紐帯が全体として弱体化していることが確認された。また、2009 年には非常に多かった地縁型のまちづくり参加、自治会活動参加の割合が低下していることが判明した。こうした現象は、とくに若い女性、未婚者、子どものいない人、流動層、非正規就業者などで目立っていることが確認された。その要因についてみると、男性については 2009 年調査時と因果的メカニズムは大きく変わっていないが、近所づきあいの弱まりや地域にもつ職縁の減少、配偶者や子どもをもつ割合の減少など、有力な促進要因のインプットが低下しているためであることが判明した。女性についてはとくに変化が大きいので別途第二報告で検討する。

4 結論

産業・雇用の安定と職住の接近により、男性でも地域的紐帯がつよくこれを支えに地縁的まちづくりが活発化していた豊田市であるが、未婚化・少子化、非正規化の傾向は地域的紐帯を弱め、これをつうじて地縁的まちづくりへの参加を抑制するようになっている。これは、企業都市的な地域秩序が人口学的・社会的条件と不適合を起こしている、あるいは適合できない層から「消極的拒否」を受けているためと考えられる。

文献 丹辺宣彦・岡村徹也・山口博史編, 2014, 『豊田とトヨタ 一産業グローバル化先進地域の現在』, 東信堂.